

# 政策としてのアニメ聖地巡礼

## アニメーション「ゆるキャン△」を事例として

我妻史人(国士舘大学)

### はじめに

コンテンツとして世界中で人気となっている日本のアニメーションには実際に存在する土地をモデルとした作品が数多く存在しています。そういった地域はアニメーションの放送中からアニメーションのファンが訪れる「アニメ聖地巡礼」の舞台になっている。このアニメ聖地巡礼は2000年代から行われていたが、2016年に映画「君の名は。」の大ヒットを受け、その舞台となった場所にアニメファンが訪れたことが大きな話題となり、同年の新語流行語大賞にもノミネートされたことで注目されました。こういった背景を踏まえ、国や地方自治体ではアニメ聖地巡礼を政策として取り入れる動きが確認できます。

そこでこの発表では、アニメ聖地巡礼という行動の誕生・発展から政策としての地位を獲得するまでの過程を明らかにすると同時にその課題について検討します。まず、アニメ聖地巡礼に関する先行研究を整理し、アニメ聖地巡礼の発展過程を整理します。次に観光庁や内閣府の資料といった一次資料に加え、国及び地方自治体の議会の議事録を参照してアニメ聖地巡礼がどのように政策として注目されているのかを明らかにします。そして、<sup>やまなしけん しずおかけん</sup>山梨県・静岡県が主な舞台になっているマンガ・アニメーション作品の「ゆるキャン」を事例として取り上げ、実際にコンテンツがどのような形で政策に取り入れられているかを確認すると同時に課題について検討します。

### 1 アニメ聖地巡礼

アニメ聖地巡礼に関する先行研究では、<sup>おかもとけん</sup>岡本健(2009)がアニメ聖地巡礼の起源やその後の展開過程などを整理している<sup>1</sup>。<sup>やまむら</sup>山村(2008)は「インターネットなどメディア技術の発達に伴い、国境を越えて漫画やアニメ作品を視聴することが可能となり、(中略)同時代的に共有された作品の一部が、いわゆる『聖地巡礼』や『コスプレ・イベント』などとして国際的な人の動きを創りつつある<sup>2</sup>」と指摘しており、インターネットを利用した新しいサービスが、アニメ聖地巡礼が国境を越えて行われることを可能とし、後押ししていることを示しています。また前掲の山村は、アニメ「らき☆すた」の聖地となっている<sup>さいたまけん く き し</sup>埼玉県久喜市において、地元商工会がアニメ製作委員会にコンタクトを取り、『らき☆すた』のランチ&公式参拝 in <sup>わしのみや</sup>鷲宮」というイベントを開催していることに指摘し<sup>3</sup>、アニメ聖地における地域活性化イベントの研究も行われています。なお、事例研究で取り上げられている以外の場所でもアニメーションを活用し、日本国内外から観光客などを呼び込もうとするなど、地域活性化につなげる取り組みが多数存在しています。

---

<sup>1</sup> 岡本健(2009)「アニメ聖地巡礼の誕生と展開」参照

<sup>2</sup> 山村(2008)「アニメ聖地の成立とその展開に関する研究 アニメ作品『らき☆すた』による埼玉県鷲宮町の旅客誘致に関する一考察」p146

<sup>3</sup> 山村(2008)前掲p152

## 2 アニメ聖地と政策

次に日本政府や自治体が公開している一次資料や国会の議事録を確認していきます。結論から申し上げますと、国の一次資料などにアニメなどの活用が記載されるようになったのは 2009 年頃から増えています。まず、日本政府の一次資料には、内閣府が中心となっていて行っている「クールジャパン戦略」の中でアニメーションやマンガを活用した日本のソフト・パワーの向上に関連付けて言及されています<sup>4</sup>。また、観光庁の「訪日外国人消費動向調査」では、「映画・アニメ縁の地を訪問」の項目が設定されており、4.6%の観光客が実際に該当する場所へ訪れたことが記載されています<sup>5</sup>。次に国会の議事録に注目すると、「アニメ聖地巡礼」を含む発言がいくつか確認できます。発言数そのものは決して多くはないですが、例えば 2017 年の参議院国土交通委員会では参考人として上山康博氏は、クールジャパンに関連して、アニメツーリズムというのが非常にこれからの産業として期待されており、単にアニメだけではなくそういった聖地巡礼を考慮すれば新しい産業につながっていく<sup>6</sup>という旨の発言や、鎌倉<sup>かまくら</sup>高校の前を具体例としてアジアを中心に非常に多くの観光客が聖地巡礼に訪れており国内外の観光客を集めることに対して非常にポテンシャルがある<sup>7</sup>という答弁がなされています。

次に、国ではなくアニメーション聖地がある地方自治体に注目してみましょう。いくつかのアニメーションの聖地となっている山梨<sup>やまなしけん</sup>県の議会議事録を確認すると、「ゆるキャン△」を活用した観光振興の取り組みが行われていることを踏まえ、アニメを活用した取り組みが大きな効果があるのではないかという発言<sup>8</sup>や、アニメ「ゆるキャン△」効果もあり山梨県内のキャンプ場の利用者が増加している<sup>9</sup>といった発言が確認でき、アニメーションの聖地となっている自治体の中でもアニメーションがきっかけとなり観光客の増加などの効果があるとともに、今後の観光政策にも活用が期待されていることが確認できます。

### 3 事例としての「ゆるキャン△」

ここまで確認してきたように、アニメ聖地は国や地方自治体といった公的な機関で政策、特に観光政策や地域振興政策といった分野で活用できる可能性があると言目されています。実際、すでにいくつかの地方自治体ではアニメ聖地を利用して様々な政策やイベントなどが行われています。そこでこの章では山梨<sup>やまなしけん</sup>県・静岡<sup>しずおかけん</sup>県が主な舞台となっているアニメーション「ゆるキャン△」を事例として取り上げ、どのような形で政策とアニメ聖地が結び付けられているかを明らかにするとともに、その課題などを検討していきます。

#### 3-1 「ゆるキャン△」

この章で事例として取り上げる「ゆるキャン」は登場人物の女子高生がキャンプを通して友情

---

<sup>4</sup> 内閣府（2009）「クールジャパン戦略」

<sup>5</sup> 観光庁「訪日外国人消費動向調査 2019 年 年次報告書」p24

<sup>6</sup> 「第 193 回国会参議院国土交通委員会」第 21 号 p10（2017 年 6 月 8 日）

<sup>7</sup> 「第 196 回国会衆議院内閣委員会」第 23 号 p4（2018 年 5 月 31 日）

<sup>8</sup> 「山梨県議会令和 2 年 11 月定例会」第 4 号（2020 年 12 月 7 日）

<sup>9</sup> 「山梨県議会令和 3 年 6 月定例会」第 4 号（2021 年 6 月 28 日）

関係を結んでいく物語です。現在は単行本が13巻ほど出版されています。もともとはマンガだったものがアニメーションになったのです。この作品はアニメーションのシーズン1の放送中から人気の作品になりました。その結果アニメーションのシーズン2とアニメーションの劇場版作品が制作されたほか、地上波のテレビで実写ドラマにもなりました。ドラマはシーズン1・スペシャル・シーズン2が制作されています。

### 3-2 アニメーションと自治体の関係

このゆるキャン△アニメーションの放送途中から舞台となっているキャンプ場や作品に登場した施設がインターネット上で特定され、話題になっていました。アニメーションを制作する際にはアニメーションの制作サイド（監督やプロデューサーなどのスタッフ）が山梨県の担当者（公務員として山梨県に勤務している人）と一緒に、山梨県のフィルムコミッションを中心に複数回のロケハンを行っています<sup>10</sup>。つまり、行政の積極的な協力のもと現実に存在している場所ができるだけ正確にアニメーションの中でも再現されているのです。

こうした背景を踏まえ、公益社団法人やまなし観光推進機構では、アニメーションのモデルとなった施設や場所をウェブ上で紹介している<sup>11</sup>ほかアニメ聖地巡礼のモデルコースの制作・公開も行われています<sup>12</sup>。また、コロナウィルスの流行前の話になってしまいますが、作品の登場人物が通っている学校のモデルになっている山梨県の本栖高校では、「ゆるキャン△本栖高校野クル誕生日会キャンプ・志摩リン」というイベントが行われています<sup>13</sup>。登場人物の誕生日会という名目のイベントで、実際に本栖高校の中でキャンプをすることができたそうです。また、アニメーションに出演している声優さんのサイン入り色紙が当たるイベントなどが行われています。このようなイベントはアニメーションの制作サイドはもちろん、山梨県などの自治体なども協力して開催しています。作品にかかわる様々な立場の人々が協力して、アニメーションのファンをアニメ聖地に呼び込んでいる例といえるのではないのでしょうか。

### 3-3 アニメ聖地と政策をめぐる課題

その一方でアニメ聖地巡礼に訪れたアニメファンのマナーの問題や著作権の問題などの課題も存在しています。例えば、先ほど具体例として紹介した「ゆるキャン△」に関連して、ある山梨県のキャンプ場では「訪れるファンの中にはマナーが悪い人もいて困っている」と苦言を呈しています<sup>14</sup>。また、地域振興には国や地方自治体といった公的な機関をはじめ該当地域の民間企業や商工会議所などの準公的団体、そしてアニメーションの制作サイドなど関係する利害関係者も少なくないため円滑な協力が難しい場合や調整に時間や費用が掛かることが想定されます。

---

<sup>10</sup> MAN TAN WEB「アニメ質問状：『ゆるキャン△』ロケハン10回以上 見て、触って、感じたことをアニメに」（2018年2月17日）

<sup>11</sup> 富士の国やまなし「山梨県のモデル地をご紹介」

<sup>12</sup> 富士の国やまなし「TVアニメ『ゆるキャン△』宿泊モデルコース」

<sup>13</sup> 「『ゆるキャン△本栖高校野クル誕生日会キャンプ・志摩リン』開催決定！」（2018年9月19日）

<sup>14</sup> Jcast ニュース「アニメ『ゆるキャン△』、ファンが無断立ち入り写真撮影『聖地』山梨のキャンプ場管理人が激怒」（2018年6月11日）

特にアニメーションの場合、作画・原作・使用音楽・出演声優それぞれに関係する権利が複雑に存在しており、権利関係の調整に時間や手間を要することが想定される。そして、アニメーションそのものがある程度の人気があれば、そもそもアニメ聖地巡礼も活発に行われません。そうしたコンテンツ自体の人気というものも必要になってきます。

## おわりに

ここまでの発表で確認してきたように、アニメ聖地巡礼がインターネットの普及といった影響を受けて発達したと同時に日本国内外からアニメ聖地が注目されてきました。元々、内閣府が主導しているクールジャパン戦略ではアニメーションやマンガを積極的に政策に活用していくことが提言されていましたが、アニメ聖地の認知度が高まったことで観光政策や地方自治体にける地域振興政策に取り入れられるようになったことが明らかになりました。一方で、アニメ聖地巡礼者のマナーの問題や行政・民間企業・アニメ制作サイドの連携が難しい場合やアニメーションそのものの人気度に左右されるなどの課題も明らかになりました。

なお、アニメ聖地巡礼を取り入れた政策の効果の検証や評価方法については今後も研究の余地があると考えられるためこの点は今後の課題とします。

## 参考文献

- 岡本健 (2009a) 「アニメ聖地巡礼の誕生と展開」『観光学高等研究センター叢書』, Vol 1
- 山村 (2008) 「アニメ聖地の成立とその展開に関する研究 アニメ作品『らき☆すた』による埼玉県鷲宮町の旅客誘致に関する一考察」『国際広報メディア・観光学ジャーナル』, 7
- 内閣府 (2009) 「クールジャパン戦略」
- 観光庁「訪日外国人消費動向調査 2019 年 年次報告書」 p24
- 「第 193 回国会参議院国土交通委員会」第 21 号 p10
- 「第 196 回国会衆議院内閣委員会」第 23 号 p4
- 「山梨県議会令和 2 年 11 月定例会」第 4 号
- 「山梨県議会令和 3 年 6 月定例会」第 4 号

## 参考 WEB サイト

- 富士の国やまなし「山梨県のモデル地をご紹介」  
([https://www.yamanashi-kankou.jp/special/sp\\_yurucamp/](https://www.yamanashi-kankou.jp/special/sp_yurucamp/))
- 富士の国やまなし「TV アニメ『ゆるキャン△』宿泊モデルコース」  
([https://www.yamanashi-kankou.jp/special/sp\\_yurucamp/model\\_b.html](https://www.yamanashi-kankou.jp/special/sp_yurucamp/model_b.html))
- ゆるキャン△公式「『ゆるキャン△本栖高校野クル誕生日会キャンプ・志摩リン』開催決定！」(2018 年 9 月 19 日)  
(<https://yurucamp.jp/news/information/730>)
- Jcast ニュース「アニメ『ゆるキャン△』、ファンが無断立ち入り写真撮影『聖地』山梨のキャンプ場管理人が激怒」(2018 年 6 月 11 日)  
(<https://www.j-cast.com/2018/06/11331077.html?p=all>)